

平成17年度

中学生海外派遣事業

～ 報告集 ～

と き 平成17年8月17日～24日

ところ 西オーストラリア州パース近郊、スワン市

稲美町国際交流協会

オーストラリアを訪問したメンバー(13名)

引率者

	氏名	性別	所属
団長	あかまつ 達夫 赤松 達夫	男	稲美町長
副団長	なかむら 美子 中村 美子	女	稲美町国際交流協会理事
生徒指導	まえだ 和則 前田 和則	男	稲美北中学校教頭
事務局長	まえがわ 正明 前川 正明	男	稲美町経営政策部長

派遣生徒

No	氏名	性別	中学校	年組
1	こいづみ 悠香 小出水 悠香	女	稲美	3 - 2
2	やまもと るみ 山本 るみ	女	稲美	3 - 3
3	おおはし 愛香 大橋 愛香	女	稲美	3 - 3
4	いまがま きとみ 今釜 聡美	女	稲美北	3 - 1
5	みづた あやな 水田 絢菜	女	稲美北	3 - 2
6	さかもと ゆり 坂元 由梨	女	稲美北	3 - 3
7	すぎもと えり 杉本 衣里	女	稲美北	3 - 4
8	まえだ あみ 前田 亜美	女	稲美北	3 - 4

平成17年度 中学生海外派遣事業プログラム

日	月日 (曜)	都市	発着	現地時刻	交通機関	日程(泊)	食事
1	8月17日 (水)	役場南側玄関 関西国際空港 関西国際空港 チャンギ空港 チャンギ空港 パース国際空港 パース市内	発着 発着 発着 発着 発着	8:00 10:00 12:00 17:35 18:50 23:50	町のバス SQ985 SQ215 専用車	関空へ 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま) 空路、パースへ 入国手続後、ホテルへ (ホテル泊)	機内食 機内食
2	8月18日 (木)	パース市内 パース市内 パース市内 パース市内 バンバリー市	発着 発着 発着 発着	9:00 9:15 9:15 10:00 12:30	専用車 専用車	兵庫文化交流センターへ 兵庫文化交流センター 小川所長表敬訪問 ファーガソンファームへ ファームステイ (ファームステイ)	朝 ホテル 昼 ファーム 夜 ファーム
3	8月19日 (金)	バンバリー市 スワン市 スワン市 スワン市	発着 発着 発着	12:30 16:00 16:00	専用車	スワン市役所へ スワン市長表敬訪問 ホストファミリーと対面	朝 ファーム 昼 ファーム 夜 ホスト
4	8月20日 (土)	スワン市				ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
5	8月21日 (日)	スワン市				ホストファミリーと過ごす	朝 昼 夜 ホスト
6	8月22日 (月)	スワン市		8:30 18:00	ホストファミリー ホストファミリー	Governor Stirling Senior High School体験入学 スワン市主催歓迎レセプション・夕食会 (ホストファミリー・ホスト校関係者・市議会議員など)	朝 ホスト 昼 学校 夜 スワン市
7	8月23日 (火)	スワン市 スワン市 パース市 パース市 パース市 パース国際空港 パース国際空港 チャンギ空港	発着 発着 発着 発着 発着 発着	8:30 9:00 9:30 9:30 12:30 13:00 16:00 21:20	ホストファミリー 専用車 専用車 専用車 SQ226	学校集合 パース市内へ向け出発 パース市内見学(買い物など) パース国際空港へ出発 空路、シンガポールへ (荷物は預けたまま)	朝 ホスト 昼 各自 機内食
8	8月24日 (水)	チャンギ空港 関西国際空港 関西国際空港 稲美町	発着 発着 発着	1:10 8:35 9:00 11:00	SQ986 町のバス	空路、関空へ 陸路、役場へ 解団式	機内食

中学生海外派遣事業 経過

- 4月25日 両中学校を通じて生徒（3年生）に申込書を配布していただく
- 5月10日 中学校申し込み締め切り日（申込者・・・9名）
（稲美中・・・男0、女3 稲美北中・・・男0、女6 計9名）
- 5月29日 面接日
- 6月 3日 派遣者9名決定
（稲美中・・・男0、女3 稲美北中・・・男0、女6 計9名）
- 7月 2日 事前研修1
・事務局、日本旅行から旅の説明
- 7月11日 事前研修2
・ヒープ先生、フィオナ先生による英語研修
・出し物の決定（みかぐら、歌「世界に一つだけの花」）
- 7月25日 事前研修3
・事前研修資料を読む
・出し物の練習（みかぐら、歌「世界に一つだけの花」）
1 みかぐらをやめ、盆踊りに変更することになる。
2 町民カレンダーの写真を使った稲美町の紹介（割当て決定）
- 8月 1日 事前研修4
（急遽）
・藤本先生（野寺）による盆踊り指導
・歌「世界に一つだけの花」、稲美町のパネル紹介の英語を練習
- 8月 8日 事前研修5
・事務連絡
・盆踊り、歌、稲美町のパネルの練習
- 8月15日 結団式

事前研修6
・盆踊り、歌、稲美町のパネルの練習
- 8月17日～24日 オーストラリアに派遣
- 9月12日 反省会
感想文等提出

オーストラリア 8 日間の記録

8月15日(月) 大橋 愛香



いよいよ、あと2日でオーストラリアです。オーストラリアへ行くために、たくさん行った事前研修もこれで最後です。会議室につくと、たくさんの大人の人たちがいました。私たちは、自分の決意を発表しました。みんなそれぞれの決意を実行できるように頑張ります!!そして、私たちが、オーストラリアに行くために協力して下さる人たちがいることを忘れずに、しっかり見て、聞いて、学んで来ます。日本に帰ってきたときには、「行ってよかった。」と満足の笑顔で話せるように努力します。

8月17日(水) 杉本 衣里

今日からいよいよオーストラリアに出発です。空港では樺沢さんが手続きをしている間、みんなおしゃべりをしたりして、リラックスしていました。私は、外国に旅行に行くのは初めてなので、どうしたらいいかわからず緊張して少しそわそわしていたと思います。飛行機に乗るとわくわくしてきました。本当は窓ぎわが良かったけど席はもう決まってしかたがなかったのであきらめました。離陸する時、体にすごく圧が

かかった気がして、びっくりしました。機内食もおいしかったです。直行便がなかったので、シンガポールのチャンギ国際空港で乗り換えました。深夜だったので眠かったです。パースの空港に着いて、一番初めに思ったことは、「寒い」ということです。想像以上に寒くて目が覚めました。バスに乗って、ガイドの志乃さんの話を聞きながらホテルに向かいました。朝が早かったのでこの日は明日の用意をしてから、眠りにつきました。



8月18日(木) 中学三年生

私たちは、スワン市から、2時間くらいかけてファーガソンファームへ行きました。スワン市から、どんどん離れていくと、広大な土地が広がりはじめました。牛や馬、羊などが、道路の横の草原で寝ていたり、走っていたり、日本では見ることのできない光景でした。ファーガソンファームに着くと、広大な土地の広さに驚きました。見渡す限りがファーガソンファームと言っていいような広さで、どこが端なのか分からないくらいでした。農家の人達に教えてもらいながら、動物にえさをあげたりしました。牛の乳搾りや羊の毛を刈るなど、普通

に暮らしている私たちにはできない体験ばかりできました。私たちは野生のカンガルーを遠くからだけど、見る事ができました。とてもうれしかったです。1日がとても早くすぎました。

8月19日(金) 水田 絢菜

朝起きると、とても寒く散歩に出かけるにもたくさん着込んでいかなければいけませんでした。散歩ではエミューが見られて良かったです。朝食を食べてから、牛の乳搾りをしました。ジョンさんが作ってくれた「稲美」の看板をたてに行きました。その後、山を登ったり下ったりする散歩コースを歩きました。ユーカリの木なども見れてやまを登る時はしんどかったけれど、とても楽しめました。

ジョンさんたちにお別れを言って、スワ



ン市役所へ出発！2時間ほど移動したあと、

ホストファミリーと対面しました。ホームステイ先に着くと、1階建てで、とても広いことに驚きました。私達は5人家族だと聞いていたので、家に入ったとき、友達が遊びに来ていたみたいで、子供がいっぱいいてびっくりしました。その友達が日本から持っていったけん玉やだるま落としなどをとても喜んでくれたので良かったです。

8月20日(土) 小出水 悠香



今日からフリータイムです。Tanya が水族館やビーチ、キングスパークへ連れて行ってくれました。

水族館では天井まで水槽の所があり、何回も同じ所をグルグル回っていました。外へ出るとインド洋が見えました。すごくきれいな青い海だったので感動しました。

昼食は魚のフライとフライドポテトでした。とても熱く油が多くて食べにくかったです。

その後アイスを食べ、ビーチで遊び、キングスパークで写真を撮りました。パースやスワン川が見える、とてもきれいな所でした。

家に帰ると昨日出かけて会えなかったBrianと挨拶ができました。BrianとTanyaはとてもやさしくて面白く、たくさん話をしてくれたので英語にも慣れてきました。

今日もいい思い出が作れました。

8月21日(日) 山本 るみ



Good Morning!! といつもとは、少し違う朝でした。朝・昼・夜とご飯がないのは当たり前で、そろそろ食べたいという気持ちになりはじめました。朝、起きると私たちは、まず動物たちにえさを与えます。家には、馬4頭、羊5頭、たくさんの鳥、カンガルー1匹に犬のシーバと猫のマウスがいます。みんな、私たちになついてくれて嬉しかったし、かわいかったなあ。

その後、パース市内の土・日曜日しか開いていない市場へ連れて行ってもらいました。また、ここでも日本との違いを感じました。

夜は、ブライアンが特製ステーキを人参やじゃがいも、とうもろこしと一緒にオープンで1時間かけて作ってくれました。4人では最後の食事だから、すっごく豪華に仕上げてくださいました。

オーストラリアはとても短く、あっという間でした。でも、短い時間でも今まで以上にたくさんの事を学ぶことができたので、将来に役立てたいです。こうして、5日目終了しました。

8月22日(月) 坂元 由梨

びっくりしました。学校見学をしたのですが、校舎は大きいし、人数もとても多く、なにより設備が日本と違いました。その後、私達と同じ9年生に、盆踊りと歌を見てもらいました。心配だったけど、うまくいきました。でも、少しはずかしかったです。

その後に動物園に行きました。普通の動物園とは違い、オーストラリアにいる動物ばかりでした。カンガルーやコアラにさわられたし、前から見たかったタスマニアデビルも見れました。



夜はスワン市の夕食会に行きました。私はこういうのは初めてだったので、会場に行ってから、こんな所でやるんだーと少し驚きました。ここでも盆踊りに歌、稲美町紹介をしました。一緒に歌ったりして楽しかったです。今日は、朝、昼、夜と、いろいろな所に行って、とても楽しい思い出が作れました。

8月23日(火) 前田 亜美

今日はいよいよホストファミリーの方とのお別れの日となりました。朝、一人ずつお別れとお礼を言って、「また来るね」と手をふり、学校にやってきました。学校には家の車で送ってもらったのですが、運転してくれた Mam には涙目で抱きついてしま

いました。「ありがとう」と何度も言って、バスに乗り、市内観光へと向かいました。パース市内観光はとても面白かったです。



野生の鳥が、思った以上に大きかったことにはびっくりしました（インコかそれ以上の大きさ）。その後、お土産を買うため「WALKABOUT」に行きました。そこでは絵葉書はもちろんのこと、かわいいネックレスやお母さんへのブローチ、カンガルーやコアラのぬいぐるみを買いました。地下食堂で昼食をとり、空港に向かいました。そして飛行機に乗り、とても楽しかったオーストラリアをあとにしました。

8月24日（水） 今釜 聡美



「もう帰るのかあ・・・」そんなことを思いながら、飛行機の中で迎えた朝。とても疲れていて、飛行機の中では何分くらい起きていたのだろう・・・というほど寝て

いました。旅の終わる寂しさを考えると、とても悲しかったです。空港に着いたときは、嬉しいような悲しいような、なんだかとても不思議な気持ちになりました。日本食が食べられる！！と考えるととても嬉しかったのですが（笑）。この海外派遣を振り返ると本当にいろいろな経験をしました。英語が伝わらず、困った時にどうにか伝えようと頑張ってみたり、あきらめず頑張ると絶対自分の力になることを、改めて実感しました。本当に良い経験となりました。たくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



オーストラリアの8日間

小 出 水 悠 香

私たちは中学生海外派遣事業で8日間オーストラリアへ行きました。出発のとき、たくさんの人に見送られ、本当にオーストラリアに行くんだと改めて思いました。長い飛行機の旅を終えたパース空港は予想以上の寒さでした。

次の日、ファームステイ先であるファーガソンファームへ向かうバスは、時速100km、まわりは草原で牛が寝ているなど、日本では考えられないことばかり。ファームも見渡す限り緑が多く、たくさんの自然と動物とふれあうことができました。

ファームステイの後、スワン市役所でホストファミリーと対面です。BrianとTanyaの2人です。残念なことにBrianは出かけているため、明日の昼過ぎでないと会えないということでした。

家はとても広く、カンガルー、馬、羊、鳥、犬、猫とたくさんの動物がいました。着いてすぐに、カンガルーに直接エサをあげることができ、とても嬉しかったです。

ホームステイ1日目は、いろんなところへ連れて行ってもらいました。水族館に行ったりビーチに行きました。ビーチでは砂に“Tanya・Rumi・Yuka”と書いたり、貝を拾って遊びました。

キングスパークにも行きました。ここはとても広くて、景色もとても綺麗なところでした。帰りの車では歩き疲れてよく寝てしまいました。家にはBrianが帰っていて、夕食の時、自分のフォークがあることを教えてくれたり、今日は何をしたか話をしたりしました。TanyaがBrianには内緒と言っていたアイスを食べたということをうっかり言うなど、とても盛り上がりました。そして、Brianは早く寝てしまいました。

ホームステイ2日目は、娘さんの家へ行き、赤ちゃんに会いました。何を言っていたのかよくわからなくて、会話に入れなくて残念でした。

その後はマーケットで買い物をしました。また帰りの車で寝ていたため、BrianとTanyaに「日本の女の子は車でよく寝る」と笑われました。

家ではBrianの薪割りを手伝って、庭を散歩しました。これが庭！？と思うくらい広くて綺麗でした。

次の日は、Governor Stirling Senior High Schoolに体験入学です。とても広く人数も多く、日本と全然違っていて驚きました。盆踊りや歌は緊張し



レセプションでホストファミリーと

て練習の時のようにできなかったのが残念だったけど、けっこう盛り上がったので良かったです。

その夜は、スワン市が夕食会を開いてくれました。ここでの盆踊りは、体験入学の時以上に楽しく踊れました。BrianとTanyaとの思い出もできたので本当に良かったです。

オーストラリアでの8日間は、本当に短いものでした。あまり英語が話せなかった私だけ、相手の話を頑張って聞くことで、やっとわかってきたと思えば帰らないといけなくて、とても悲しかったです。

やっぱり、行かないとわからないことのほうが多く、感じることもたくさんありました。そして、もう一度オーストラリアへ行き、BrianとTanyaともっとたくさん話をしたいです。

このような体験ができたのも、稲美町国際交流協会の方々、パース市の方々、兵庫文化交流センターの小川所長を始めとする職員の方々、ホストファミリーの方々のお陰です。本当にありがとうございました。



初めの一步

山 本 る み

8月17日、いざ家族と8日間も離れてオーストラリアに行くとなると、「一人で大丈夫かな？」など、不安でいっぱいでした。

飛行機から見る景色は言葉では言い表すことのできないほど綺麗で、この景色を私の家族や友達に見せてあげたいくらいでした。

オーストラリアの街並みは稲美町とは違い、ビルやお店などがたくさんあり、経済的にも発展している都市でした。パース市にある兵庫文化交流センターからは、海のように大きなスワン川を見ることができ、本当に川なのかと疑ってしまうほどでした。

文化センターでは、たくさんの外国の人が日本語の勉強をしているそうです。そのことを聞いて、ちょっとしたことでふれあうことができるっていいなあと嬉しくなりました。久しぶりに畳や障子などを見て少し安心しました。

私は、この8日間で日本とオーストラリアとの文化の違いを一番多く知ることができました。一つ目は“食文化”で、オーストラリアの主食はじゃがいもでした。お肉などのオープン料理が多かったので、二日ぐらいてもう日本のご飯が恋しくなりました。二つ目は“言葉”の違いです。私は、行く前は英語ができるのか心配でした。でも、授業で習う英語とは違い、英語は私とオーストラリアの人たちとのつながりを作ってくれた大切なものです。そして、英語というのは国が違い、言葉が違うという中で、私に自分から“Hi”や“How are you?”などと、しゃべりかける勇気を与えてくれた、大きな存在です。普段、少ししか口にしていない英語が、私のできないという気持ちを破り、できるという自信に変えてくれました。

ホームステイ先の方は、辞書などで私たちがわかるまで単語の意味を教えてくださいました。どんなときでも私たちの事を一番に考え、私たちが楽しめるように計画まで立てて下さっていました。私たちのために、いつもより早く起きて朝食を作ってくださったり、感謝の気持ちでいっぱいでした。ホームステイをしていて、日本の人は、やりたいこと・やりたくないこと・言いたいことなど、自分の意思を素直に言うことができないという人が多いと思います。けれど、その反面、外国の人(オーストラリアの人)は、それをしっかりと言うことができているので、これはすごい違いだなあと感じました。

私がこの派遣事業に参加した理由は、将来の夢に役立てるためでした。外国



ホストファミリーと一緒に

ということで、英語だけでも経験しておきたいと思ったからだったのですが、ファームステイといって、乳搾りや羊の毛刈りなど、私が夢に見ていた農場体験ができるだなんて考えてもなかったのも、本当に胸がいっぱいでした。もちろんオーストラリアなので、牛や羊・うさぎやブタなどには、英語で接しなければなりません。そういった意味では、私の目的にぴったりの良いチャンスだったと思います。

オーストラリアでの8日間は、今までの自分にはないものをたくさん身につけることができる本当に良い機会でした。

私に、こんな最高のチャンスを与えてくださったのは、家族を始め、稲美町の人たちの支援があったからです。

稲美町の温かさに見守られオーストラリアへ行き、オーストラリアの方の温かさを知り、それを感じて稲美町に帰ってくる。これこそ国際交流なのではないでしょうか。

最後に、私がお世話になった人、すべての人に“Thank you”とたった一言だけど感謝の気持ちを込めて言いたいです。



私にとって、海外派遣は忘れることのできない大切な思い出になりました。それでは、私がオーストラリアで体験したことをお話します。

オーストラリア…、それは「初めて」がいっぱいでした。初めて乗る飛行機、初めて見る空の上、初めて近くで見るスチュワーデスさん。そして、初めての外国。長い空の旅が終わり、やっとオーストラリアに着きました。外は冬なので寒く、まっ暗だったのであまりオーストラリアに来た実感が沸きませんでした。

次の日は、ファームへ農場体験に行きました。バスに乗って、よく周りを見ると、英語の看板、外国の人たち…。「オーストラリアにおるんや」、やっと実感が沸いてきました。ファームは、どんだけデカイねん！！とつっこみたくなるほど土地が大きく、牛や羊がそこら辺をウロウロしています。一つの檻にギュウッと押し込まれている日本の牛とは全然違いました。たくさんの自然の中でのんびり過ごしていると「空って低いなあ」とか、日本にいると何も思わないことが、何だか不思議な気分になりました。

ファームでの2日間もあっという間に終わってしまい、次は一番楽しみにしていたホームステイです。私のホストの人は、一人暮らしの女の人でした。すごく明るくて、面白い人で、一気に緊張もほぐれました。いろんなところへ連れて行ってくれました。なかでも、オーストラリアの海はすごくきれいで、青く澄み切っていました。言葉もだいぶ聞き取れるようになってきて、一緒に笑ったりできるとすごく嬉しかったです。

学校へ行く機会もあり、私たちと同世代の人ともふれあえました。向こうの学校は、とにかく自由で個性が尊重されていました。授業も、自分で選べるので、興味のあることを伸ばせるのでうらやましかったです。私たちは、生徒の前で盆踊りを踊りました。みんな、一緒になって踊ってくれて、すごく嬉しかったです。

そして、とうとう帰る時になりました。ホストの方との別れは本当に寂しかったです。私は、空港までの間、オーストラリアで過ごした日々を思い出していました。大きな大地に驚き、たくさんの動物、自然とふれあうことのできたファームステイ。オーストラリアで、普段の生活に混じり、たくさんのことを知り、たくさんの人と出会い、たくさんの言葉を覚えたホームステイ。日本の



ホームステイでのひと時

文化を紹介した学校訪問。私たちの海外派遣は、多くの人の支えで成り立っているんだとしみじみ思いました。

日本へ帰ると、私の育った町がまっています。私も、オーストラリアの人たちのように自分の意見をしっかり言えるようになりたいです。そして、私が育ったこの町を大切にしたい、そう思いました。この一週間で、私は少しだけ強くなれた気がします。本当にこの事業に参加できて良かったです。



人のあたたかさ

今 釜 ^{さと} 聡 ^み 美

毎日、宿題の夏休みを過ごす中、あっという間にオーストラリア海外派遣の日を次の日に控え、あわてて荷物をトランクに詰め込みました。朝、早起きをし、荷物の最終チェックをして役場へ向かいました。役場につき、お母さんと別れ、たくさんの方々に見送られバスが出発しました。バスの中はみんな元気で楽しい話ばかりをしていました。そんな中、私は英語は話せるかな・・・、日本・兵庫県・稲美町の代表としてしっかり活動できるのかなと、不安なことを考えていました。

しかし、いつの間にかみんなの楽しい雰囲気引き込まれ、空港にはすぐ到着しました。空港でも見送られ、出国手続きをしていよいよ飛行機です。飛行機には何回か乗ったことがあって、耳がキーンとなることがとても嫌で・・・でも、オーストラリアに行けるなら！と思い、楽しいことばかり考えていました。飛行機の中では、学校の宿題をしたり音楽を聞いたり、英会話の本を読んだり、いろいろなことをして過ごしました。

シンガポールで乗り換えをして、バタバタとしている間に、オーストラリアに到着しました。とても寒かったのですが、夜中に着いたため、「到着した！」という実感はあまり沸きませんでした。しかし、次の日、ファームステイへ向かう途中の風景を見ていると、だんだん色んな日本との違いに気づき、海外に来ているんだと実感しました。

ファームは日本では考えられないくらいに広いところで、たくさんの自然・動物・そして人のやさしさ・あたたかさを感じることができました。ご飯がとてもおいしく、ご飯の時間がとても楽しみでした。トラクターに乗って野性のカンガルーを見に行ったり、みんなで看板を立てに行ったりと、とても楽しい1泊2日でした。楽しすぎて、別れがとてもつらかったです。

そして、また2時間の道のりを行き、いよいよホストファミリーとの対面です。ファームステイで多くの楽しい経験ができたからか、ホームステイに対する不安はなく、どんな方なんだろう？英語は苦手だけど、頑張っって気持ちを伝えよう！と前向きにいろいろなことを考えていました。そして対面・・・とても明るい方で、家に向かう車の中で一緒に歌をうたい、そんな風に過ごしている間に、すぐに打ち解けることができました。

家に着き、自分の部屋へ案内してもらいました。すごく可愛らしい部屋で、とても気に入りました。部屋に入ってシーツを換えて、すぐにスーツケースを開きました。中から日本からのお土産を出して、お土産を渡すときの言葉を英会話の本で確認してから、お土産を渡しに行きました。英語がうまく出でこず、ジェスチャーでそのお土産について説明しました。何とか伝わり、気に入ってくださったのでとても嬉しかったです。

自分の英語が伝わり、もっといろいろなことを伝えたい！と、この時とても思



い

ファーガソンファームで記念撮影

ました。ホームステイ初めての夕食は外食でした。英語で注文するのはとても緊張しました。注文する前にメニューがうまく見れず、とても困り、ホストファミリーのデビさんに助けられました。私のホームステイ先はデビさんの一人暮らしだったので、最初はなんだかとても不安でした。だから、デビさんの前では、できるだけ日本語で大橋さんと2人だけで話さないようにしました。夜、寝る前に、「明日の予定は何ですか？」と英語で話し、買い物へ行くことになりました。学校でよく使う英語で会話ができたので、なんだか本を見て話す感覚とはまた違い、うまく話せたのでとても良かったです。オーストラリアに来たばかりの頃は、すれ違うとき接触してしまった人に対して、日本語で謝っていたのが、日がたち、気付いたときにはすんなり英語が口から出ていてとても驚きました。そして、少し外国人になれたような、不思議な気持ちになりました。

このように、普段経験できないことがたくさん経験でき、人の優しさにたくさんふれることができた良い経験となりました。もっと英語を勉強して、自分の考え、思いが伝えられるようになり、もう一度オーストラリアを訪れたいなと思いました。

最後になりましたが、海外派遣事業を企画し、私たちを支えてくださった役場の方々、国際交流協会の方々、本当にありがとうございました。この経験を、活動が終わったからといって終わらすのではなく、将来に活かしていきたいと思えます。



初海外 オーストラリアで

水 田 ^{あや} 絢 ^な 菜

このオーストラリア中学生海外派遣は、私にとってとても大きなものになりました。

オーストラリアに行く前、私は自分のしゃべれる英語がどれだけ通じるのかが知りたいと思っていました。でも、本当に話してみると、文法など気にしていられず、自分のわかる単語が話の中に2～3個出てくると大体、どんな事を聞かれているのかや話の内容が少しわかりました。逆に、自分が話す場合には、一生懸命話すとむこうの人でも大体のことを聞き取ってくれ、コミュニケーションが自分でも取れているなどわかるほどでした。

私のホームステイ先の家族は一切日本語を話さず英語だけでしたが、かえって私にはそれが良かったと思っています。

オーストラリアと日本の違いは、私が思っていたよりもたくさんありました。食事の時はもちろんナイフとフォークで、お箸は全く使いません。道路の表示も、亀の絵が書いてある標識などもありました。信号もかなりの数がありました。全体的に広いと感じました。他にも数え切れないほどたくさんあったけれど、一番の違いは人と人との接し方だと思います。日本では、わからないことを恥ずかしくてなかなか聞けないことが多いです。でも、オーストラリアに行ってみて、名前のわからないものがあれば「What is this?」などと聞けました。すると、そのことをとても詳しく、わかりやすく教えてくれました。答えてもらって私は、自分の英語が通じたうれしさと、わかりやすく教えてくれた感謝の気持ちがとても大きく、聞いて良かったと思ったことがたくさんありました。

私と同じぐらいの年の人がどんなことをしているのかなと思っていたけれど、日本と同じようにテレビゲームをしたり、音楽を聴いたり、パソコンを使ってメールもしていました。驚いたのは、ほとんどの人が携帯電話を持っていたことです。

ホストファミリーと対面した日、ホームステイ先にはたくさんの友達が来ていました。ほとんどの人がテレビゲームをしたりしていて、どうしたらいいか困っていると、ホストファミリーの人がみんなと一緒に遊べるようにカードゲームなどをしてくれました。テレビゲームをしていた人もやめて、みんなと一緒に遊びました。ついさっき対面したばかりなのにこちらのことをすごく考



ホストファミリーと一緒に

えてくれているなと感心しました。私がホストファミリーの立場だったらすぐにこんな行動をとれるかわかりません。このことは見習わなければいけないと思いました。

他にも、どこかに出かけて家に帰って来た後には、必ず「飲みものや食べるものはいる？」と聞いてくれます。朝も、「おはようございます」と起きていくと、「朝ごはんは何がいい？」と注文を聞いてくれます。晩ごはんは、どのホストファミリーでもそうだったみたいですが、お母さんとお父さんが作っていました。私のホストファミリーでは、子どもが作ってくれた日もありました。日本では、男の人が料理をしているところはあまり見たことがありません。誰でも作ろうと思えばできるのだから、見習ったらいいなと思いました。

オーストラリアと日本の文化の違いや共通点を、肌で感じることができ、英語だけの生活の中で自分の英語でコミュニケーションをとり、大自然の中で動物とふれあうなど、本当に貴重な体験ができ、学ぶことができました。この良い体験をこれからの私の人生の中で、何かの形で生かしたいと思っています。

ホストファミリーの皆さんを始め、お世話になった方々、本当にありがとうございました。



すべての人に感謝

坂 元 由 梨

この8日間は本当に特別な日々でした。それと同時に、楽しみと心配がずっとあった8日間でもありました。

まずは、ファームステイです。ここでは、初めての体験をたくさんさせていただきました。カンガルーを見るのが楽しみだったのに、遠くにいるのが見えただけでした。追いかけたらすぐに逃げてしまいました。そして、ここのお孫さん（小さい女の子でかわいかったです）がきたのですが、話したりしようとすると、嫌がられて嫌われてしまいました。あと、ファームではとても景色が綺麗でした。特に、夜の星空はここら辺では見られません。星も月も、ものすごく明るく、星の数も全然違いました。

ファームには2日間いましたが、2日じゃだめです。もっといたくなる場所でした。

ファームを離れるとき、バスの中で、2日間でこれだけたくさんの思い出が作れたんだから、これからのホームステイ先では、どんな思い出が作れるだろうかという思いと、ステイ先の家族に会うのが楽しみという思いでいっぱいでした。

ホストファミリーに迎えにきてもらって、家に着いたときは驚きました。家は広いし、庭も広いし、家族は5人だと聞いていたのになぜかたくさんの方が家にいました。それはなんと、パーティーをするからだそうです。週末にはよくすると聞いてはいたのですが、実際にしているとは思っていませんでした。その日は、トランプやビリヤード（初めてで全然できませんでした）をして遊びました。

次の日、朝起きるとびっくりしました。昨日集まっていたみんながソファで寝ていたのです。一人や二人ではありません。オーストラリアの人はみんな仲が良いんだと感じました。

向こうの人たちは、私が英語ができなく困っていると、何度も説明してくださったり、ジェスチャーをして伝えてくれようとしていました。何度も聞いてやっと私がわかったと伝えると、いつも笑顔で答えてくれました。私はそれが一番嬉しかったです。英語が苦手な私でも、ほんの少しだけでも意味がわかったのです。

ステイ先の家では、男の人がだいたい料理をしていました。これは、日本人



ホストファミリーと一緒に

も見習わなきゃいけないと思いました。

スワン市が開いてくれた夕食会では、他の人たちのホストファミリーの家族を見ましたが、どこの家族の人も明るくて優しいのでした。

最初に書きましたが、この8日間は本当に特別だったと思います。オーストラリアという初めての場所に行って、英語が苦手でも何とかできましたが、この次またこんな機会があることを考え、苦手から得意にしようと決心しました。そして、普段は使わない英語がいかに大切かとてもわかりました。

ホストファミリーと別れる前日の夜に、プレゼントをもらいました。たくさんあったので驚きました。そして、家族全員と写真を撮って寝たのですが、次の日の朝があまりに早く終わってしまい、別れるのがとても悲しく、寂しかったです。

私は今、本当に嬉しいです。あと2年この海外派遣が始まるのが遅ければ、ホストファミリーの人たちにも会えなかったし、今のこの気持ちもありません。この事業をするのにご協力してくださったすべての人に感謝しています。

私は、この事業に参加できて本当に良かったです。



オーストラリア海外派遣を終えて

私は、海外へ行ったことがなかったので、緊張と楽しみな気持ちとの両方でした。パスポートを取りに行ったり、スーツケースに必要なものを考えながらつめたり、自分でできることは一人でやりました。

私がオーストラリア、海外派遣で学んだことは

英語の大切さ

聞こうとすること

話そうとすること

自分を知ってもらうこと

お互いをわかりあうこと　　です。

英語の大切さは、オーストラリアではもちろん英語、あと、空港内でもほとんど英語、飛行機の機内でもほとんど英語でした。

聞こうとすることとは、難しい英語を話されるとわからなくなってしまうけど、相手の目を見て聞こうとすること。もう一度言ってもらったり、ゆっくり言ってもらったり、何か一つでも単語がわかると文の内容がわかることもありました。

話そうとすることとは、相手からの質問に答えるだけではよくないと思うので、自分からもどんどん相手に質問していったほうが良いと思いました。もし、間違っていたらどうしようとか、何て言えばいいかわからないとか、最初は思っていたけれど、一度、勇気を出して質問してみても通じたときはとても嬉しかったです。一度成功すると、いろんなことを質問できるようになりました。

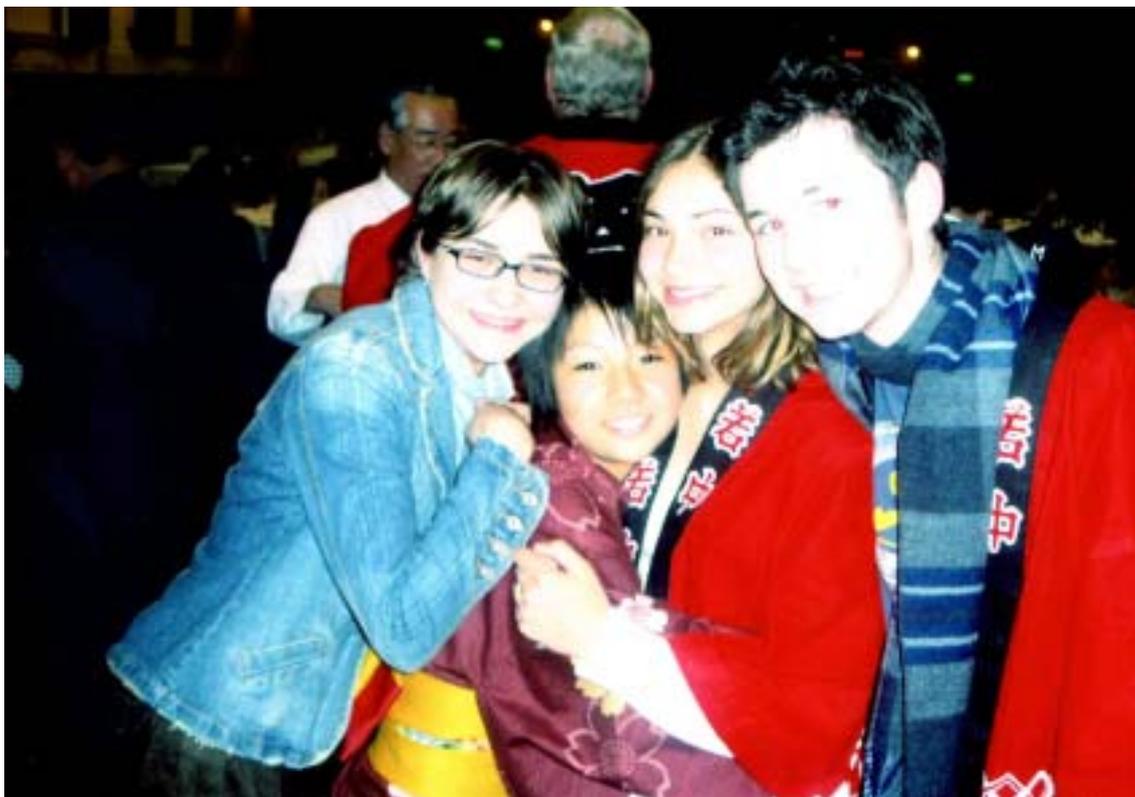
自分を知ってもらうことは、どんどん会話をすることが大切だと思いました。自分の家族のこと、ペットのこと、好きな教科・嫌いな教科、好きな食べ物・嫌いな食べ物、中学校のこと、好きなスポーツなど。何でも自分のことを話していると、相手も相手自身のことを話してくれました。

お互いにわかりあうことというのは、日本とオーストラリアの違いについて話したりしました。日本では靴を履いて家に入らない、畳がある家が多い、中学校の多くは制服があるなどなど、ささいなことを言うと、とても喜ばれました。逆にオーストラリアの文化も聞きました。

私はホストファミリーに日本語を教えました。すると、家族は私に日常生活で使う英語を教えてくださいました。それと、ニワトリはコケッココと鳴き、犬

はワンワンと鳴く、救急車はピーポーピーポーと音を立てながら走るなどを言う
と、みんな笑っていました。英語と日本語では聞き取り方も違うようです。

言葉は日本語と英語で違ってても、伝えたいという気持ちがあれば伝えることが
できました。今回の貴重な体験は私の宝物になりました。



スワン市主催の歓迎レセプションでホストファミリーと



すべてに感動

杉 本 衣 里

オーストラリアでの8日間は、アツという間に過ぎ、多くの「すごい」や珍しさ、感動でいっぱいだった。

二日目。昨日の夜中にホテルに着き、3時頃に就寝。朝起きると、外はまだ薄暗い様子だった。窓の外を見るとビルの間から光の矢を放つように黄色い球がのぼってくるのが見えた。とても綺麗で、ため息が出るほどだった。ファームステイに向かうバスの窓から見える景色は、日本とは全然違っていた。遠くまで広がる草原、白い雲に青い空、暖かな日差しの中で昼寝をする牛や馬……。まるで風景画を見ているようだった。みんな最初の方は日本では見慣れない景色に「すごい」と言っていた。しかし、長い道のりの間ずっとこんな風景ばかりで、途中でそんな声もなくなっていた。ファーガソンファームに着いた時、お腹が空いていることもあって、みんなぐったり疲れていた。ローザさんが作ってくれた温かい食事が終わると、自分たちの部屋へ向かった。暖房は暖炉でびっくりした。前に兵庫文化交流センターに行ってからきたので、制服から汚れてもいいような服に着替えた。ジョンさんに私たちが乗った荷台を引いてもらい、農場へというか、山一個ぐらい！？を少しばかり周ってもらった。向こうは冬に雨が多いらしく、緑が青々とし、空の色と合ってとてもすばらしい眺めだった。そうしている時、向こうに野生のカンガルーの群れを見た。見れるとは思ってもなかったのも、とても嬉しかった。あとは、ポニーに乗ったり、動物にエサをあげたり触ったり……。夜、南十字星と空いっぱいの星を見た。小さな火を囲んでキャンプファイヤーをした。ジョンさんにオーストラリアの歌や遊びを教えてもらい、みんなでやってみた。少し難しかったけど楽しかった。マシュマロを木の枝に刺して火であぶり、焼きマシュマロを食べた。中がトロトロで、甘くてとてもおいしかった。ファームステイでは、ジョンさんとローザさんが優しくしてくれて、短い間だったけど、楽しい時間を過ごすことができた。別れを惜しみながら、ファーガソンファームを後にした……。

ホストファミリーと対面するためにスワン市にやってきた。私たちを迎えにきてくれたのはマン（ヒラリー）とブリアナ（15歳の女の子）だった。向こうの家は1階建てが一般的らしく、2階建ては水辺の豪邸だけだそうだ。ホストの家は、1階建てで、かわいい感じの印象を受けた。ドアを開けるとレベッカ（ブリアナの3歳上の姉）が待っており、私に抱きついて、挨拶をしてくれ



ホストファミリーと一緒に海へ

た。3人とも元気で明るく陽気で、いつも私たちのことを気づかってくれた。マンにはいろいろな所に連れて行ってもらった。3日目の夜はダンスパーティー、4日目はキングスパーク、ショッピングに行き、海に行った。いろいろな種類の青があり、ダイヤモンドをちりばめたようにキラキラ光ってとても綺麗だった。5日目、クッキーを作ったり、うどんを作ったりした。どちらもおいしくできて喜んでもらえた（クッキーは作り方を教えてもらった）。夕方、低い山を車で登り、夕日が沈むのを見た。とても感動した。今でも鮮明に覚えている。6日目、体験入学をした。向こうの生徒に盆踊りや歌を喜んでもらい、入学したいと思った。夜、夕食会の時も同じことをして盛り上がった。

ホストと別れの時、家で涙が止まらなかった。いつも私たち優先でしてくれて、言葉で少し困ったことはあったけど、一生懸命伝えようとすれば伝わるんだと感じた。私たち以上に言葉のことを考えて接してくれた。そういう気遣いがとても嬉しかった。

私にとってこの8日間はいろいろな感情があった。すごくすごくいい思い出、勉強になった気がする。いろいろな体験をさせていただいて本当に良かったと思った。



オーストラリアで学んだこと

前田 亜美

8月17日、旅立ちの朝、7:30に役場玄関前に集まり、バスに乗って関西国際空港に向かいました。見送りにはお母さんが来てくれました。出国手続きで並んでいる時も、ずっと手を振ってくれていました。少し恥ずかしかったけど、とても嬉しかったです。飛行機に乗るのは4回目だったのですが、海外に行くのは初めてなので、とてもドキドキしました。チャンギ空港に着くと、直ぐにパース行きの飛行機に乗り換えるので、あまりゆっくりする時間はありませんでした。パースに着くと入国手続きがあつて、とても緊張しました。

2日目は「兵庫文化交流センター」に行きました。そこで小川所長にたくさんの事を教えていただきました。

- マグロの位置を日本人が教え、オーストラリアでもマグロを捕るようになったこと。
- オーストラリアと日本が互いに助け合っていること。
- たくさんの方が日本語を勉強し、日本文化を理解しようとしていること。

世界各国が今、「日本ブーム」になっています。お寿司やうどんなど、日本の食べ物の人気が高くなっています。だからこそ、私たち日本人も色々な国の文化を理解しなければいけないと、感じました。「兵庫文化交流センター」はとても大きなビルの中にあつて、そこからの眺めはとても綺麗でした。そこにあつた大きな窓の向こうには、湖とも思えるような大きな川、「スワン川」が雄大に流れていました。

午後からは「ファンガーソンファーム」に行きました。みんなとても親切でたくさんのおいしい昼食で出迎えてくれました。昼食後、羊の毛刈り（寒さで羊がかわいそうなのであまりしなかった）を見学したり、動物にふれ、ポニーにも乗りました。夜には「キャンプファイヤー」をして初めて「焼きマッシュマロ」を食べました。火の中に入れると、すぐに燃えてしまい真っ黒になってしまいました…。でも苦甘くっておいしかったです！！

4日目、5日目はホストファミリーと過ごしました。私たちのホストファミリーはお母さんと大学生と高校生の娘さんの3人でした。でも、前の夫が遊びに来たり、お母さんと彼のデートにおじゃまさせてもらったり、とってもオープンでびっくりしました。高校生の女の子は私より1歳上だけなのに、とっても女っぽくて可愛く、ついつい見とれてしまいました。

4日目はでっかいショッピングセンターに連れて行ってもらいました。一番驚いたのは、野菜がそのまま山積みになっていたことです。日本では袋に入れ



ホストファミリーと一緒に

であるのが多いからです。なので、とても新鮮に見えました。その後には、海に連れて行ってもらいました。とっても綺麗で感激しました。でも紫外線が強いのに参加しました。夜は「ダンスに行こう！」と誘われてびっくり！知らない人に「踊りましょう」と誘われましたが、踊った事がないので、踊る勇気ができませんでした。

5日目は犬のロージーと遊んだり、みんなと一緒にクッキーを焼いたりしてゆったりと過ごしました。

6日目は朝早くから Governor Stirling Senior High school に行きました。いろいろな授業を見学する事が出来ました。美術や数学教室・・・、特に感心したのはコンピューターを使った筆記授業です。スワン市はとても広いので遠くて学校に通えない子どもたちがいるそうです。そこで活躍しているのがPCです。私も体験させていただきましたが、マウスパットみたいな所に専用のペンで絵を描くと、画面に出てきて、「こうやってコミュニケーションをとるんだよ。」と教えていただきました。

本当にオーストラリアでは言葉では言い尽くせないくらいたくさんのお話を学びました。飛行機に酔ってつらい体験もしましたが、私のこれからの人生においてとてもプラスになった貴重な時間を過ごさせていただきました。そして私はみんなと「また、きっと会おうね」と約束してきました。

今だから言えるとおきのエピソード

- ・ アイスクリームがかなり大きくて食べるのが大変だったこと。
- ・ ホームステイで「お父さんは友人の告別式に出かけた」と言ったのを、“お父さんは死んで、告別式があった”と勘違いしていた。
- ・ ホームステイでお父さんと「お母さんには内緒」と Tim Tam を食べた。
- ・ 「ブロッコリーは好き？」と聞かれて、好きじゃないのに「好き」と言ってしまう…。でも、食べると結構美味しかった。
- ・ 学校訪問に行ったとき、私と同じくらいの年の子が、普通に、携帯を持ってきていたので、驚いた。
- ・ 服を買っていると、横にいたおばさんと何だかもりあがって、友達のようにになっていた（写真撮っとけばよかったあ～）。
- ・ オーストラリアの人の家はとても散らかっている・・・（笑）。
- ・ お土産をたくさん買ったのに、お土産袋をくれなかった・・・実はケチ?!（笑）。
- ・ タイ米は本当に口にあわない・・・。逆にオーストラリアの方は日本米が苦手なよう。
- ・ お別れのときの服装がバスローブだった（笑）。
- ・ 食事の時に、ナイフとフォークが上手に使えず、お皿をナイフと接してしまい、キイキイ音が鳴った。
- ・ ホストファミリーの人は全く日本語をしゃべってくれず困ったけど、最後は「さよなら」と言ってくれた事が嬉しかった。
- ・ ホストファミリーの子が学校に行く時、300ドルも持っていった。約3万円、少し驚いた。

- ・ 炭酸は飲めないのに、ジュースは炭酸ばかりで、とても苦労して飲みました。
- ・ ホームステイ先の猫にほっぺをひっかかれ、3本のキズあとができてしまいましたが、それがいろいろな人との会話のきっかけとなりました。
- ・ カンガルーは茶色だと思っていたので、白色を見たとき、突然変異かと思いました。
- ・ うどんを作ってあげたらフォークで食べてた・・・。やっぱりお箸は難しかったみたいです。
- ・ シャワーが動かなくてお湯を出したのに、思い切り水をかぶってしまいました。心臓発作になるかと思いました。
- ・ ラッキーなことに珍しくコアラが起きてて、正面から顔を見ました。結構、怖い顔をしていました。
- ・ ホストファミリーのお母さんとその恋人がラブラブでした。しかも、私が後ろで皿洗いしているときに、イチャイチャしていたので、「終わりましたよー」と振り返って良いのかどうか迷っていました。“私の存在、忘れてません・・・？”

